

前年度と比較し、進行乳癌の割合が増加 —初回受診者の掘り起こしと受診率アップを—

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会
鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会

- 日 時 平成27年2月5日（木） 午後1時40分～午後3時20分
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 26人
魚谷健対協会長、廣岡部会長、山口専門委員長
青木・池田・大久保・岡田・工藤・小林・下田・瀬川・長井・長谷川・林・村上各委員
オブザーバー：尾室鳥取市保健師、永野米子市保健師、廣田米子市保健師
石黒倉吉市保健師、古谷智頭町保健師
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：米田課長補佐、久保田係長、羽原主事
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

【概要】

・平成25年度は受診率15.8%、要精検率6.90

%、精検受診率は91.6%、がん発見率0.40%、陽性反応適中度5.73%であった。国の

指標は要精検率11.0%以下、精密検査受診率90%以上、がん発見率0.23%以上、陽性反応適中度2.5%以上としているが、鳥取県はいずれもいい成績であり、精度が保たれている検診が行われていると思われる。

鳥取県の受診率は全国平均に比べ高いが、国の目標50%には程遠い状況である。その中で、初回受診者の掘り起こしと全体の受診率向上の対策として、休日、夜間検診を行っているが、効果が上がっているという報告があった。

- ・平成25年度に発見された乳がん又は乳がん疑い76例について確定調査を行った結果、確定乳癌67例で、非浸潤癌は9例で、Stage I が33例で、早期癌の比率は61.2%であった。Stage IV症例も1例あり、Stage III症例も昨年度より多かった。
- ・鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録実施要綱の新規登録者の登録条件を一部改正することとなった。新規登録者のための一次検診医講習会は継続して行い、新規登録者は現行どおり受講することを登録条件とすることとなった。

現行では、一次検診医講習会を受講できなかった場合は、部会等の長が指名した部会及び委員会の医師系委員から指導を受けることとしているが、該当者がほとんどなく、別に指導の機会を設けることも難しいため、この部分は登録条件から削除することとなった。

挨拶（要旨）

〈魚谷会長〉

乳がん部会長の石黒清介先生が年度途中で県外に異動されたことに伴い、後任に廣岡保明先生に就任していただいた。

乳がんは、検診を受診することで、がんの早期発見、治療につながっているため、受診勧奨をい

かに行うか重要である。本日の議題に上がっている平成25年度乳がん検診最終実績報告等について、忌憚のないご意見をいただき、鳥取県の乳がん検診がより充実していくことを期待している。

〈廣岡部会長〉

この度、石黒先生の後任として、乳がん部会長に就任しました。よろしくお願いします。

〈山口委員長〉

日頃より乳がん検診にご協力いただき、ありがとうございます。マンモグラフィ併用検診が開始され10年経過し、要精検率がかなり下がり、検診結果も安定してきたが、平成25年度検診実績、検診発見がん確定調査結果等から、新たな課題も見えてきたので、後ほど報告します。

報告事項

1. 平成25年度乳がん検診実績最終報告について
〈県健康政策課調べ〉：

久保田県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
〔平成25年度最終実績〕

平成25年度対象者数118,248人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）、受診者数18,715人、受診率15.8%で、平成24年度より受診率0.7ポイント増加した。

要精検者数1,292人、要精検率6.90%で前年度より0.47ポイント減少した。精検受診者数1,184人、精検受診率は91.6%で、前年度より0.6ポイント減少した。

精検の結果、乳がん74人、がん発見率（がん／受診者数）0.40%、陽性反応適中度（がん／要精検者数）5.73%であった。がん疑いは2人発見された。平成24年度に比べ、がん発見率は0.04ポイント、陽性反応適中度は0.21ポイント減少した。

過去5年間では受診率は約15%、精検受診率は約92%で推移している。要精検率は併用検診開始した平成17から19年度までは10%と全国平均より

高かったが、平成20年度以降は減少傾向である。また、がん発見率は概ね横ばい、陽性反応適中度は増加傾向である。

国の指標は要精検率11.0%以下、精密検査受診率90%以上、がん発見率0.23%以上、陽性反応適中度2.5%以上としているが、鳥取県はいずれもいい成績であり、精度が保たれている検診が行われていると思われる。

検診機関別に見てみると、受診者数は集団検診約4割、医療機関検診が約6割で、要精検率は集団検診5.87%、医療機関検診7.78%で医療機関検診が高い傾向である。圏域別の要精検率は東部6.86%、中部8.11%、西部6.33%で依然として中部が高い傾向である。また、40歳、50歳代の要精検率が高い。がん発見率は東部0.43%、中部0.35%、西部0.39%、また、陽性反応適中度は東部6.2%、中部4.38%、西部6.15%であった。

視触診検診のみ受診者数は9人で、そのうち要精検者数4人で、精検の結果、乳がんであった者は0名だった。

厚生労働省ホームページで公開されている平成22年度・23年度「地域保健・健康増進事業報告」データより、鳥取県内市町村別精検未把握率を示した。

精検未把握率とは、要精検者のうち、精検受診の有無がわからない者及び（精検を受診したとしても）精検結果が正確に把握できていない者の割合である。国の許容値は10%以下である。精検未把握率は平成22年度1.5%、平成23年度は2.0%であった。

また、国が示した「がん検診のためのチェックリスト」を用いて本県の精度管理に活用することとし、健対協で把握できないチェック項目リストのうち国がホームページで公開している項目（検診受診歴（初回・非初回）別の要精検率等、偶発症の有無、精検未把握率）について、報告があった。

平成23年度実績の上記項目の集計結果から、検

診受診歴別の要精検率・がん発見率・陽性反応適中度については、非初回よりも初回が高い傾向などがわかった。

初回受診者の割合は全国平均が約42%に対し、鳥取県は約33%で、鳥取県の初回受診者が少ない。検診受診歴別のがん発見率の比較から、初回受診者からより乳がんが発見されやすいというデータが出ていることから、初回受診者の受診勧奨が課題である。また、鳥取県の受診率は全国平均に比べ高いが、国の目標値50%には程遠い状況である。

そのような中で、受診勧奨によって受診者が増えた場合、受け入れ体制はどうかという質問があった。

・それに対し市町村の検診が行われる6月～2月にかけては検診機関の受け入れは困難であるが、3月～5月にかけては余裕があるとのことだった。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：大久保委員報告

平成25年度実績は住民検診受診者数8,615人、要精検者数503人、要精検率5.8%、精検受診者数454人、精検受診率90.3%、精検の結果、乳がん27名、がん発見率0.31%、陽性反応適中度5.95%であった。

(1) 乳がん27名のうち15名が初回受診での発見であった。

また、乳がん27名のうち、MMGのみ要精検者からは17名、視触診+MMG要精検者からは9名であった。視触診のみ要精検となった者からは1名が発見されている。

MMGで発見された26名はカテゴリー C3が12名、C4が12名、C5が2名であった。

視触診のみで発見された1名は平成23年度マンモ+視触診で要精検となり、精検結果は乳腺症であった。平成25年度は視触診のみで要精検となり、精検結果は乳がんI期であった。

(2) 発見乳がん27名の年齢階層別では55～59歳が最も多く6名、45～49歳と65～69歳で各5名

の計16名(59.2%)を占めている。例年は50歳～60歳代の発見がん率が高いが、平成25年度は45～49歳の発見がん率が高かった。これは、啓発活動の効果と休日健診の実施による受診者数の増加が大きな要因と考える。

休日健診は、月に2～3日行っている。休日は若年層と車をもっていない高齢者が多い。

また、南部町では、平成26年度から公民館で午後5時30分ころから8時30分までの夜間健診も開始し、多くの人が受診している。

2. 平成26年度乳がん検診実績見込み及び平成27年度検診計画について：

久保田県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

平成26年度実績見込みは、対象者数118,431人、受診者数19,953人、受診率16.8%で、前年度より約1,200人増加する見込みである。平成27年度実施計画は受診者22,303人、受診率18.8%で計画している。

3. 平成25年度乳がん検診発見がん患者確定調査結果について：山口委員長

平成25年度に発見された乳がん又は乳がん疑い76例について確定調査を行った結果、確定乳癌67例、良性・経過観察2例、その他1例、調査中6例であった。

- ・平成25年度の確定乳癌は67例で非浸潤癌は9例、Stage I が33例で、早期癌の比率は61.2%であった。Stage IV 症例も1例あり、Stage III 症例も昨年度より多かった。
- ・MMGのみで発見された症例が32例、触診のみで発見された症例が5例であり、視触診も一定の効果があるものと思われる。触診5例の年齢は40代1名、50代1名、60代3名であった。
- ・昨年度は2年以内の繰り返し検診の患者で早期癌の割合が高かったが、25年度は検診歴と早期癌の比率には差を認めなかった。

- ・術式、リンパ節郭清に関しては、非触知乳癌と触知乳癌で差を認めなかった。
- ・検診発見癌で内分泌療法を受けた割合は90%で高い値であった。化学療法は45%で行われており、昨年(18.8%)と比較して高くなっていた。

現在、調査中のものもあるので、後日、最終結果を取りまとめる。

マンモグラフィ検診が主流となりつつあるが、触診のみでがんが5例発見されたことから、やはり視触診とマンモグラフィ併用検診を行っていくことが大切であることが確認された。

4. 地区症例検討会等について

平成26年度各地区読影会実施中間報告(1月末)は以下のとおりである。

東部(山口委員長) - 東部医師会館を会場にして、週2回読影会を開催している。99回開催し、1回の平均読影件数は34件であった。5市町を対象に3,326件の読影を行い、CAT1が2,938件(88.33%)、CAT2が249件(7.49%)、CAT3が121件(3.64%)、CAT4が11件(0.33%)、CAT5が7件(0.21%)であった。比較読影件数2,184件(65.7%)である。

平成26年8月4日と平成27年1月26日に要精検症例を集めた読影委員症例検討会を開催した。

また、乳がん検診症例検討会、乳がん検診マンモグラフィ読影委員会を3月に開催する予定である。

中部(林委員) - 中部読影会場にて、週1回読影を行っている。33回開催し、1回の平均読影件数は23件であった。6市町を対象に5医療機関で撮影された写真775件の読影を行い、CAT1が630件(81.29%)、CAT2が56件(7.23%)、CAT3が85件(10.97%)、CAT4が4件(0.52%)、CAT5は0件であった。比較読影件数453件(58.5%)である。依然としてCAT3は10.97%と高い。

症例検討会は2月26日に予定している。

西部（廣岡部会長）－西部医師会館を会場にして、週2回読影を行っている。44回開催し、平均読影件数は37件であった。4市町を対象に1医療機関で撮影された写真1,655件の読影を行い、CAT1が1,292件（78.07%）、CAT2が271件（16.37%）、CAT3が85件（5.14%）、CAT4が6件（0.36%）、CAT5が1件（0.06%）であった。比較読影件数1,146件（69.2%）である。

症例検討会は3月16日に開催する予定である。

5. 「かかりつけ医連携受診勧奨強化事業」に係るリーフレット作成について：岡田委員

前回の会議で検討していただいた「かかりつけ医連携受診勧奨強化事業」に係るリーフレットを印刷し、昨年10月に県内の医療機関等関係先に配布した。

協議事項

1. 鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録実施要綱について

前回の会議において、新規登録の場合の登録条件について協議を行ったところ、新規登録者は年々少なくなっているが、一次検診医講習会は継続して行い、現行どおり受講することを登録条件とすることとなった。

また、現行では、一次検診医講習会を受講できなかった場合は、部会等の長が指名した部会及び委員会の医師系委員から指導を受けることとしているが、該当者がほとんどなく、別に指導の機会を設けることも難しいため、この部分は削除する

こととなった。

この度、改正案が提示され、協議の結果、原案どおり、承認された。

よって、以下のとおり、実施要綱が一部改正。

3 新規登録の場合は、原則として健対協の主催する一次検診医講習会を受講すること。

なお、この講習会は、乳がん及び乳がん検診についての一般的知識、特に視診及び触診に重点をおいた診断法、触診の実技の習得を目的とし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会に引き続いて年1回開催するものである。

2. 平成27年度乳がん検診従事者講習会について

平成27年8月に西部で行うこととなった。講師の選定等は廣岡部会長にお願いすることとなった。

3. その他

初回受診者の掘り起こしと全体の受診率向上の対策として、休日、夜間検診を行い、効果が上がっているという報告があったが、更なる受診率向上に向けて、県はどのように考えているのかという質問があった。

⇒県においては、これまでも市町村に対し、休日がん検診に係る検診車の休日割増費用の一部を補助しているところだが、更なる受診体制については、市町村、検診機関の鳥取県保健事業団、中国労働衛生協会とも調整しながら検討を進めていきたいとのことだった。